



東京部会(第110回)

日時:	2019年6月18日(火) 19:30-21:40
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原、下村、埴、中沖、鈴木、岡部、杉浦、黒岩、岸、三枝、西崎、中村、新井の13名

1 19年夏休み経済教室の準備をおこなった。

(1) 鈴木深氏(東京証券取引所)から、6月18日現在の申し込み状況が報告された。

・大阪初日29人、二日目22人、東京高校初日91人、二日目86人、東京中学初日73人、二日目77人とのこと。昨年に比べて出足が良くないので、情宣に関して研究団体などへのちらしの配布など強化の要請があった。

(2) 夏の教室の発表準備の状況の確認を行なった。

・東京、大阪部会、札幌部会で、発表内容のブラッシュアップをすすめている。

・札幌部会で検討された北見北斗高の山崎先生の資料が配布された。これからも発表者との連絡、情報共有を通して準備をすすめてゆくことが確認された。また、講演者の読売新聞山崎氏との打ち合わせのための質問事項なども資料として配付され、参加者から労働問題では何を聞きたいのかの希望の聴取が行なわれた。

2 実践報告・教材提案関係

(1) 参加者からの報告と検討

① 下村和平先生(京都府立山城高校) 報告があった。

・下村先生は、夏の経済教室(大阪)での入試問題の発表者である。当日報告予定の「入試問題を授業にどう活かすか」の概略が報告された。

・発表では、これまで教科書本文に沿った授業をやってきたこと、需要・供給曲線をどう教えてきたかその紹介、生徒に考えさせる例として空気の値段の授業紹介、入試問題(ガソリン税と需要の価格弾力性の問題)を解かせながら経済事象の発生の理由、何が問題なのか、どうすれば解決するのかを考えさせる授業の例、という流れの内容を準備していることが紹介された。

・検討では、余剰の概念をどこまで教えるのか、シフトの理解のさせ方、税と弾力性の関係の理解の方法などが議論対象となった。基本的な方向、流れとしては問題がないので、発表までにさらに詳細をつめてゆくことになった。

② 西崎弘人先生(目黒区立大鳥中学校)から「将来の政策判断を目指して～活動型授業の試みを通して～」の報告があった。

・西崎先生は、夏の経済教室(東京中学)で実践発表の予定である。今回は、4月の東京部会での報告を再編したもので、メインの「政治家になったつもりで予算案を考えよう」の実践(政治と経済の融合分野である財政に関して社会的な見方を働かせつつ、複数の学習事項を融合させたパッケージ型の活動型授業の実践部分)を中心に据えて整理したものが報告された。

・検討では、報告の流れが明確になったと評価がされるとともに、プレゼンテーション資料の提示の仕



方などのさらなるブラッシュアップが要望された。また、活動型授業の評価に関して、知識の定着の測定方法などの質問があり、比較実験ができないなかでどのように評価をしてゆくのかの議論が行なわれた。

③ 黒岩公輔先生（都立立川国際中等学校）から「新テストを視野にいたした授業改善の実践報告」があった。

- ・黒岩先生も、夏の経済教室（東京高校）での新テストをテーマとする時間の実践発表者である。
- ・新テストの地方自治と地方財政に関する問題をヒントに新たに開発された教材の現在取組中の実践の中間報告があった。授業での生徒の取組の様子から、グループワークでは、課題への取組の前にベースとなる知識（今回は地方財政の仕組みなど）が必要で、それが十分でない生徒がどのように課題に接近するか手がかりがない問題点があったことが紹介された。
- ・今後さらに実践を行ない、経済教室での発表に備えることになった。

④ 岸香おり先生（ICU高校）から「高等学校における「反緊縮」的経済政策を学ぶ授業実践」の報告があった。

- ・岸先生はこの授業実践全体の内容のなかの、日銀のマネタリーベースが伸びているにもかかわらず世の中に出ているマネーストックの量が増えていない現状を知ること、及び、貸し出しによってお金が生まれるという正しい信用創造の仕組みを理解させるねらいの箇所を今回報告された。
- ・報告では、参加者が協力して「銀行ゲーム」を行ないながら、信用貨幣が預金から生まれるのではなく、貸し出しから生まれることを体験した。また、ここから、誰かが貸したときに預金通貨が始まるが、だれも借り手がない時には政府が借りているという仕組みを理解させたいとの報告があった。
- ・検討では、篠原代表から、信用創造の理解に関しては、岸先生の説明は正しいが、信用創造はどこを出発点とするかの違いで、貸し出しからでも預金からでも差はないのではという指摘があった。また、マネタリーベースとマネーストックの関係に関しては、貨幣乗数（信用乗数ともいわれる）の理解があれば良いということでその解説が行なわれた。

⑤ 岡部ちはる氏（東京証券取引所）から「東証新教材の紹介と実践報告「会社を知ろう！会社を応援しよう！」」の発表概要の説明があった。

- ・夏休みの経済教室の中学（大阪、東京）での発表内容の紹介で、教材の実践中の学校の結果を踏まえて教材の効果や導入時の注意点を発表するとのことである。

⑥ 連絡事項として、鈴木氏から東証が監修をしている『おしごと年鑑』（朝日新聞出版社）の最新版と図書館掲示用のポスターができて全国の学校に配布したことが報告された。また、篠原代表から、ネットワークのHPの改修を予定しているので、教材の発信の方法や活用しやすい形にするための提案があれば寄せて欲しいとの要望が出された。

### 3 今回の部会

- ・夏の教室の準備のために京都から下村先生が参加するなど、発表内容の検討が行なわれ、今回も充実した会



議となった。また、岸先生の報告中の銀行ゲームを体験したり、貨幣乗数(信用乗数ともいわれる)のレクチャーなどもあり、予定より大幅に終了時間が延長した部会となってしまった。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定、2019年9月21日(土)14:00~17:00。次回は土曜日の昼間の開催。会場は慶應義塾大学三田キャンパス内会議室。